

平成 27 年度

全国体力・運動能力、運動習慣等調査

北広島市の結果

- 1 調査の概要
- 2 調査結果
 - (1) 体格と実技に関する調査
 - (2) 肥満度に関する調査
 - (3) 児童生徒質問紙調査
 - (4) 学校質問紙調査
 - (5) クロス集計結果
- 3 調査結果より

北広島市教育委員会

平成 28 年 2 月

1 調査の概要

(1) 調査の目的

- 国が全国的な子どもの体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子どもの体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 各教育委員会、学校が全国的な状況との関係において自らの子どもの体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子どもの体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

(2) 調査の対象

- ・小学校第5学年、特別支援学校小学部第5学年の全児童
- ・中学校第2学年、中等教育学校第2学年、特別支援学校中学部第2学年の全生徒

(3) 調査の内容

①児童生徒に対する調査

ア 体格と実技に関する調査

- ・体格：身長、体重
- ・実技：握力、上体起こし、長座体前屈、反復横跳び、20mシャトルラン（中学校は持久走も可）、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ（中学校はハンドボール投げ）

体力テスト種目	単位	体力要素	測定	
① 握力	kg	筋力	左右握力の平均値。	
② 上体起こし	回	筋パワー・筋持久力	30秒間に上体を起こした回数。	
③ 長座体前屈	cm	柔軟性	長座位で前屈したときの両手の前方への移動距離。	
④ 反復横とび	点	敏捷性	20秒間に両脚で左右側方に反復跳躍した回数。	
⑤	20mシャトルラン	回	全身持久力	20m 走行の折り返し回数。
	持久走 ※中学校のみ 選択可	秒	全身持久力・長距離 走能力	男子 1500m, 女子 1000m の走行時間。 ※中学校は、⑤のどちらか1種目を選択。 両方実施した場合は得点の高い方で総合評価
⑥ 50m走	秒	疾走能力	50m の疾走時間。	
⑦ 立ち幅とび	cm	筋パワー・跳躍能力	両脚で前方へ跳躍した直線距離。	
⑧ ボール投げ	m	巧緻性・投球能力	ボールを遠投した距離。 ※小学校はソフトボール 中学校はハンドボール	
体力合計点	点	8種目の体力テスト成績を1～10点に得点化して総和した体力テスト合計点。		

イ 肥満度に関する調査

ウ 質問紙調査

②学校に対する質問紙調査

(4) 調査の方法

悉皆調査

(5) 調査の実施期間

平成 27 年 4 月から平成 27 年 7 月末までの期間で実施

(6) 調査学校数・児童生徒数

	全 国		北海道		北広島市	
	学校数	児童生徒数	学校数	児童生徒数	学校数	児童生徒数
小学校	20,259	1,055,897	1,088	41,749	8	560
中学校	10,027	1,008,414	633	42,098	7	613
合 計	30,286	2,064,311	1,721	83,847	15	1,173
	(校)	(人)	(校)	(人)	(校)	(人)

※中学校に西の里中学校陽香分校を含む

(7) 調査結果の留意事項

- 本資料において、北海道及び全国はいずれも公立の学校を示したものである。
- 本調査の集計・分析は国において、実技調査、児童生徒質問紙調査、学校質問紙調査の回答の精査を行い、性別不明など一部のデータは集計・分析の対象外としている。
- 体格と実技のレーダーチャートは、全国の割合を50とした時の北海道の値と北広島市の値を示している。
- 本調査結果は、体力・運動能力の特定の一部であること、学校における教育活動の一側面であることに留意する必要がある。

2 結果の概要

(1) ■ 体格と実技に関する調査

	身長	体重	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトルラン	50m 走	立ち 幅とび	ボール 投げ	体力合 計点
北広島市	○	—	○	—	—	○	△	—	—	—	—
小 男	—	○	○	—	—	○	△	—	—	○	—
小 女	○	○	○	△	—	○	△	△	△	○	△
中 男	○	○	○	—	△	—	—	△	○	△	—
中 女	○	—	○	—	—	○	△	—	△	△	—

※全国を50とした時の数値 ○:1ポイント以上上回っている、—:ほぼ同程度である、△:1ポイント以上下回っている

○体格

- ・小学校女子と中学校男子は身長・体重ともに全国を上回っている。

○体力合計点

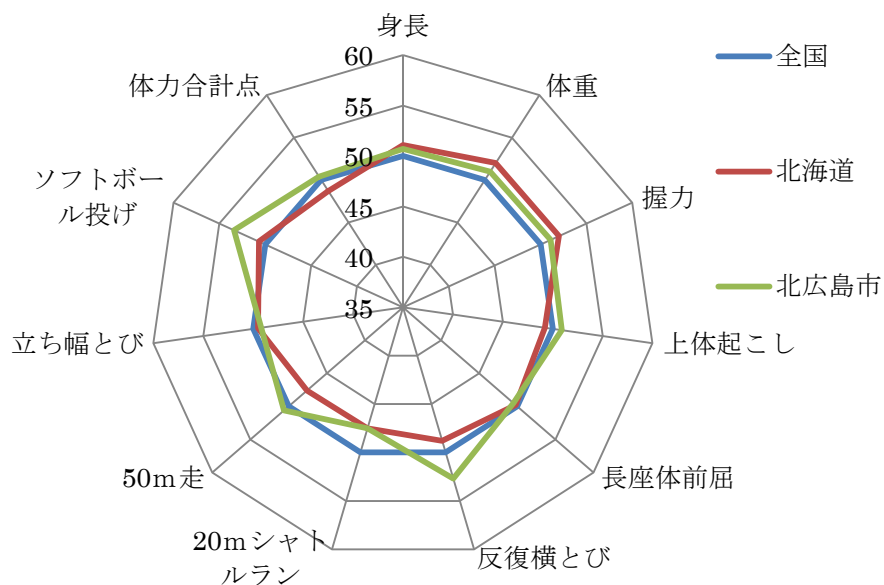
- ・小学校男子、中学校男子・女子ともに全国平均とほぼ同程度である。
- ・小学校女子は、全国を下回った。実技8種目のうち4種目において全国平均をわずかではあるが下回ったため、それらを克服するための取り組みが必要である。

○各種目

- ・20m シャトルランについては、小学校男子・女子と中学校女子が全国平均を下回っており、取り組みの工夫改善が必要な種目である。

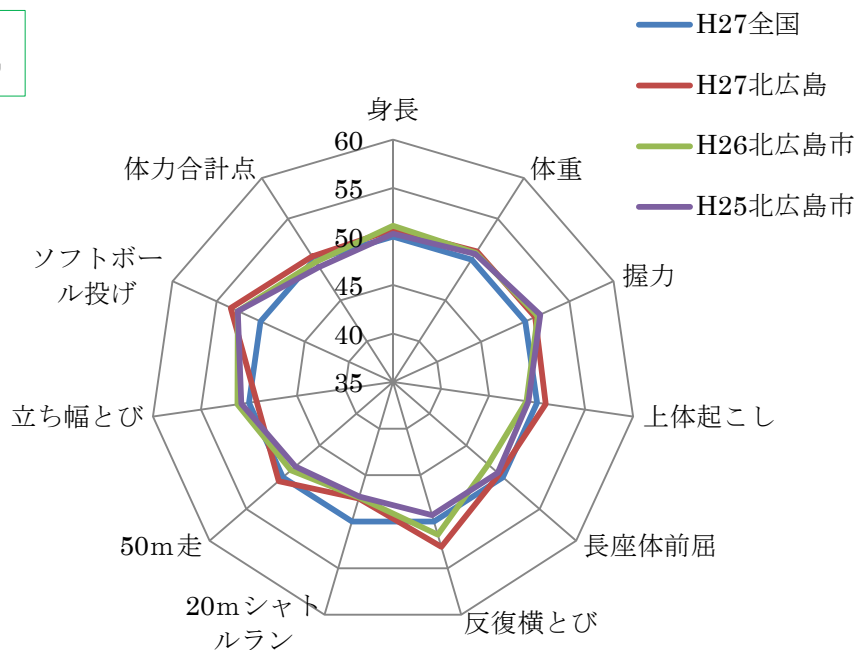
① 小学校 男子

ア 各種目の状況



- ・ 身長は全国とほぼ同程度で、体重は全国をわずかに上回っている。
- ・ 握力、上体起こし、反復横とび、ソフトボール投げは、全国を上回っている。
- ・ 20m シャトルランは全国を下回っている。
- 体力合計点は、全国とほぼ同程度である。

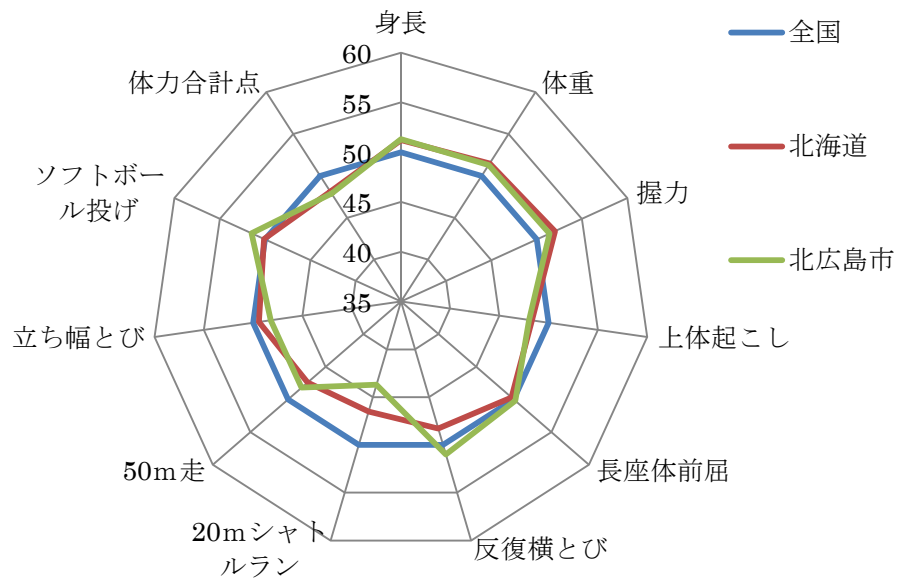
イ 各種目の経年変化



- ・ 身長・体重ともに昨年度と同様である。
- ・ 上体起こし、長座体前屈、反復横とび、50m走は、昨年度を上回っている。
- ・ 立ち幅とびは、昨年度を下回っている。
- 体力合計点は、昨年度とほぼ同程度で、全国ともほぼ同程度である。

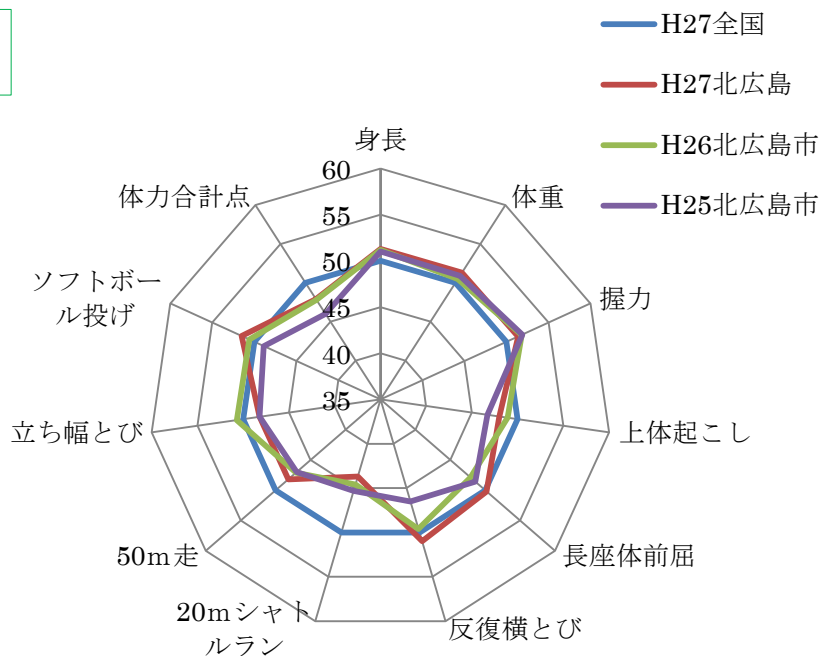
② 小学校 女子

ア 各種目の状況



- ・ 身長・体重ともに全国を上回っている。
 - ・ 握力、反復横とび、ソフトボール投げは全国を上回っている。
 - ・ 上体起こし、20m シャトルラン、50m 走、立ち幅とびは全国を下回っている。
- 体力合計点は、全国を下回っている。

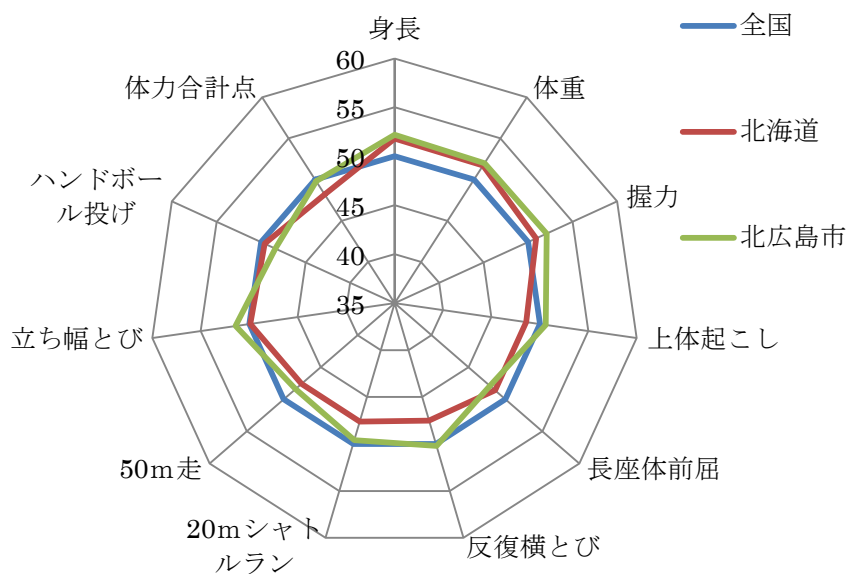
イ 各種目の経年変化



- ・ 身長・体重とも、昨年度とほぼ同程度である。
 - ・ 長座体前屈、反復横とび、50m走、ソフトボール投げは、昨年度を上回っている。
 - ・ 上体起こし、20mシャトルラン、立ち幅とびは、昨年度を下回っている。
- 体力合計点は、昨年度とほぼ同程度である。

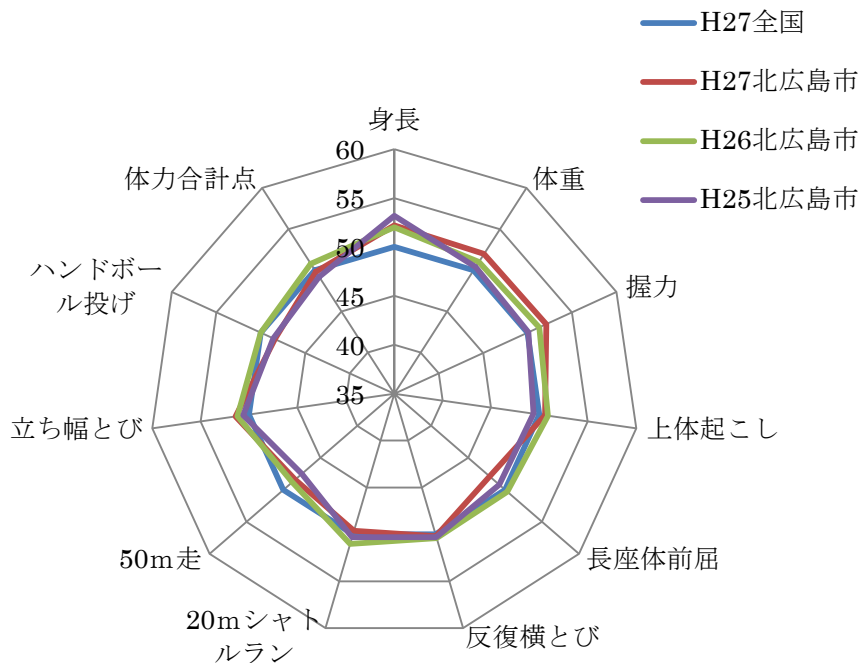
③ 中学校 男子

ア 各種目の状況



- ・ 身長・体重ともに全国を上回っている。
- ・ 握力、立ち幅とびは全国を上回っている。
- ・ 長座体前屈、50m走、ハンドボール投げは全国を下回っている。
- 体力合計点は、全国とほぼ同程度である。

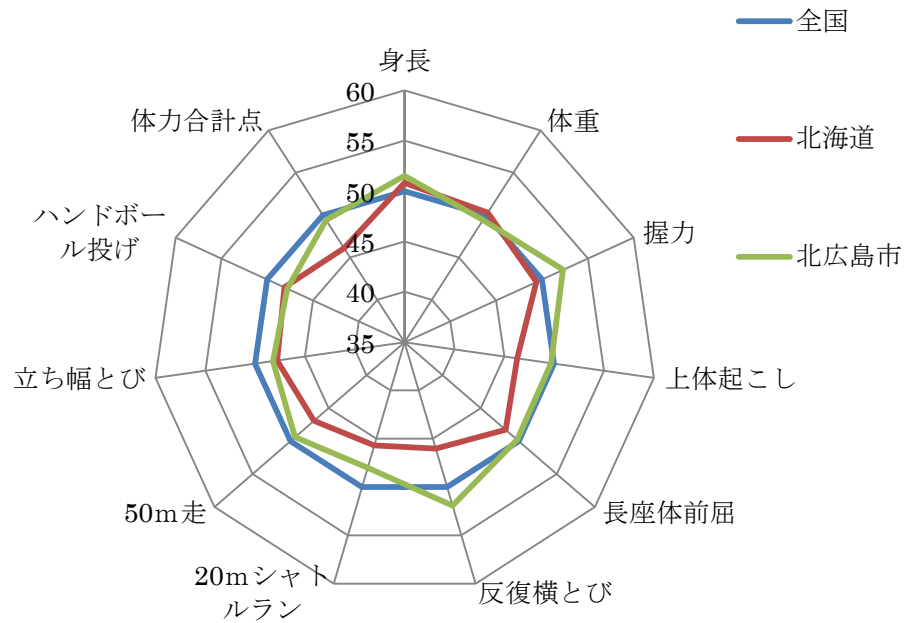
イ 各種目の経年変化



- ・ 身長は昨年度とほぼ同程度で、体重は昨年度をわずかに上回っている。
- ・ 握力は、昨年度を上回っている。
- ・ 長座体前屈、ハンドボール投げは、昨年度を下回っている。
- 体力合計点は、昨年度をわずかに下回っている。

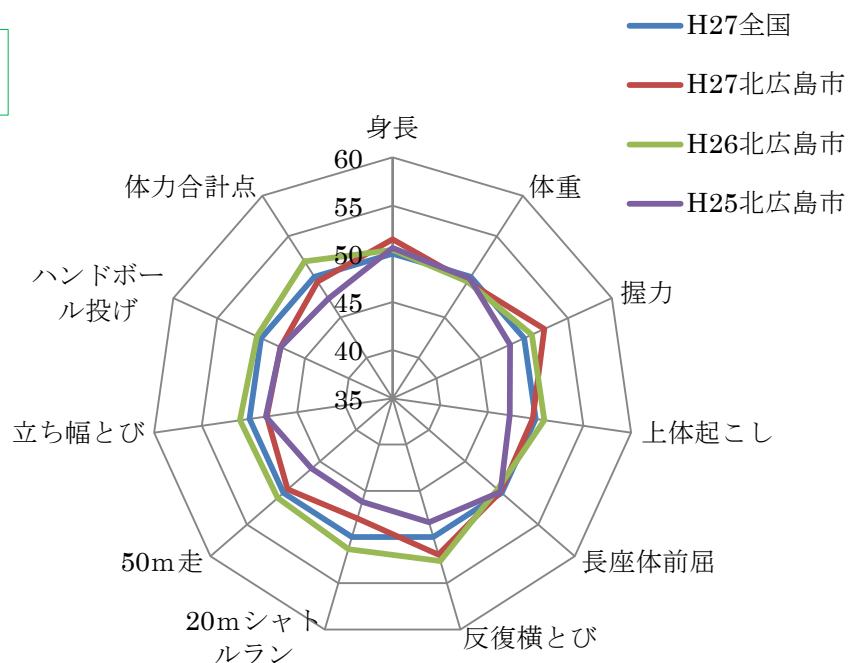
④ 中学校 女子

ア 各種目の状況



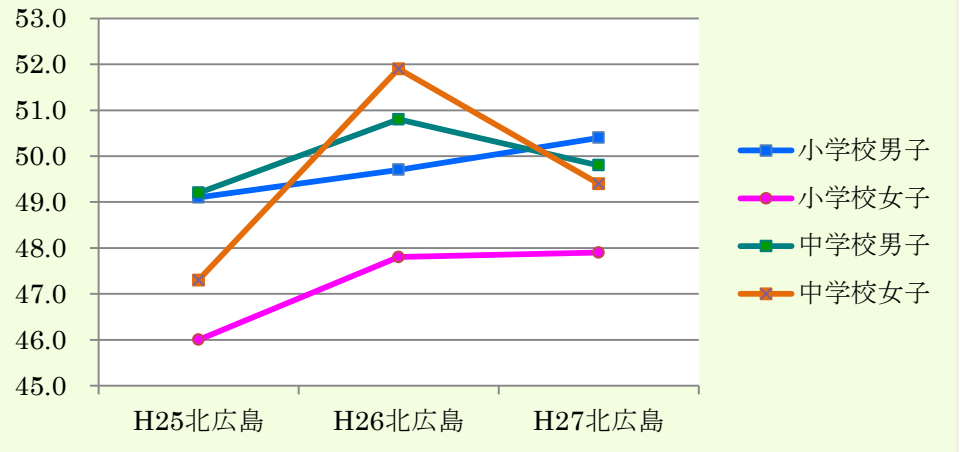
- ・ 身長は全国を上回っており、体重は全国とほぼ同程度である。
 - ・ 握力、反復横とびは、全国を上回っている。
 - ・ 20m シャトルラン、立ち幅とび、ハンドボール投げは全国を下回っている。
- 体力合計点は、全国とほぼ同程度である。

イ 各種目の経年変化



- ・ 身長は昨年度を上回り、体重は昨年度とほぼ同程度である。
 - ・ 握力は、昨年度を上回っている。
 - ・ 20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ハンドボール投げは、昨年度を下回っている。
- 体力合計点は、昨年度を下回っている。

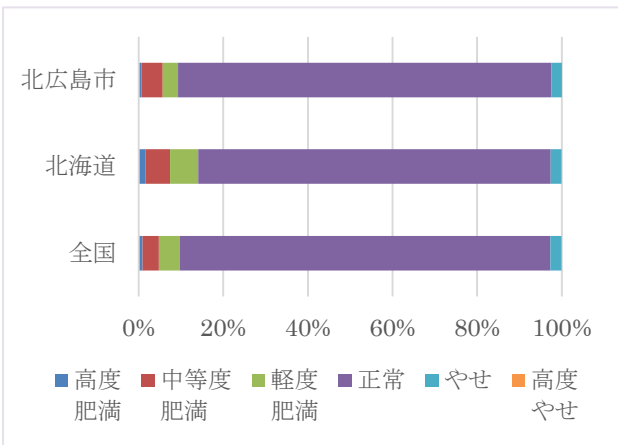
⑤ 体力合計点の
推移



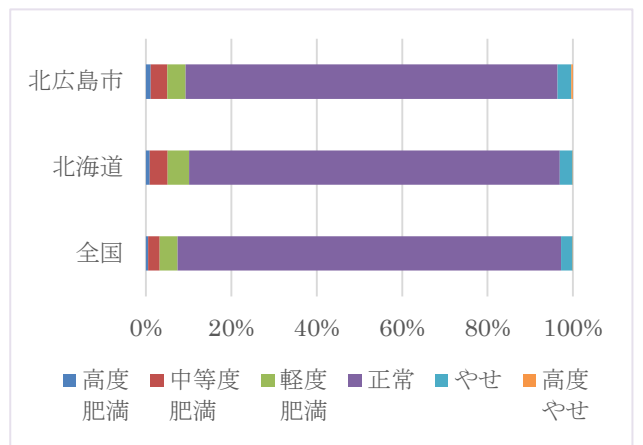
(2) ■ 肥満度に関する調査

① 肥満傾向児・痩身傾向児の出現率

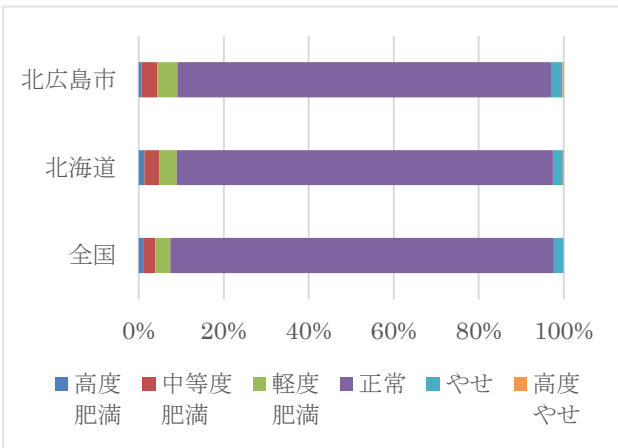
小学校 男子



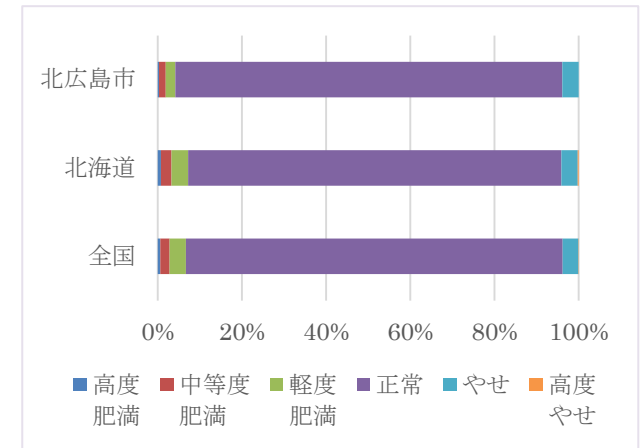
小学校 女子



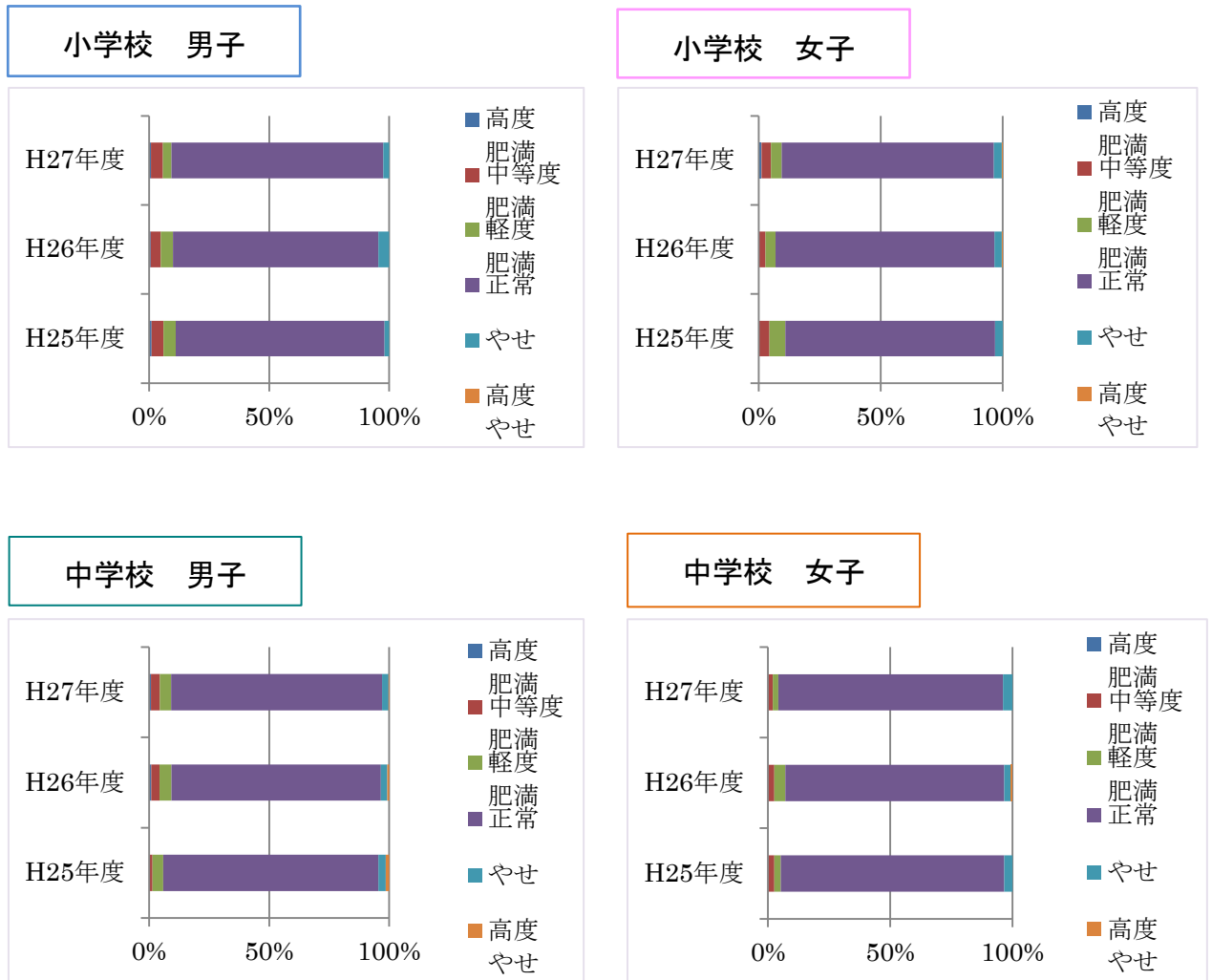
中学校 男子



中学校 女子



② 肥満傾向児・痩身傾向児の出現率の経年変化



○ 痩身傾向は全国とほぼ同程度で、肥満傾向にわずかな差異が見られる。

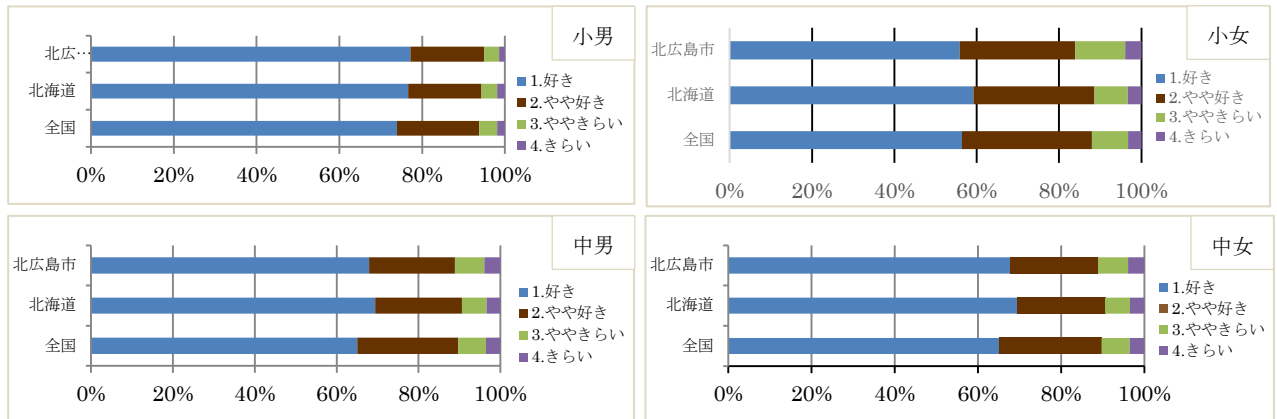
- ・ 小学校男子は、肥満傾向が全国と比べてほぼ同程度である。
- ・ 小学校女子は、肥満傾向が全国と比べてわずかに高い。
- ・ 中学校男子は、肥満傾向が全国と比べてわずかに高い。
- ・ 中学校女子は、肥満傾向が全国と比べて低い。

○ 経年変化について、痩身傾向に大きな変化は見られないが、肥満傾向は年度により、わずかながら差異が見られる。

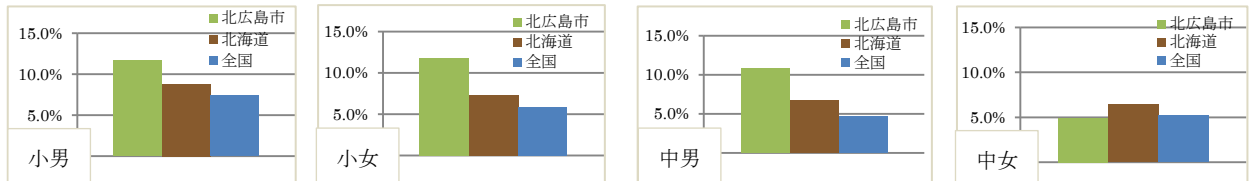
- ・ 小学校男子は、肥満傾向がこの3年間をとおしてほぼ同程度である。
- ・ 小学校女子は、肥満傾向が昨年度よりわずかに高く、一昨年度よりは低くなっている。
- ・ 中学校男子は、肥満傾向が昨年度とほぼ同程度で、一昨年度よりわずかに高くなっている。
- ・ 中学校女子は、肥満傾向が昨年度よりわずかに低くなっており、一昨年度とはほぼ同程度である。

(3) 児童生徒質問紙調査

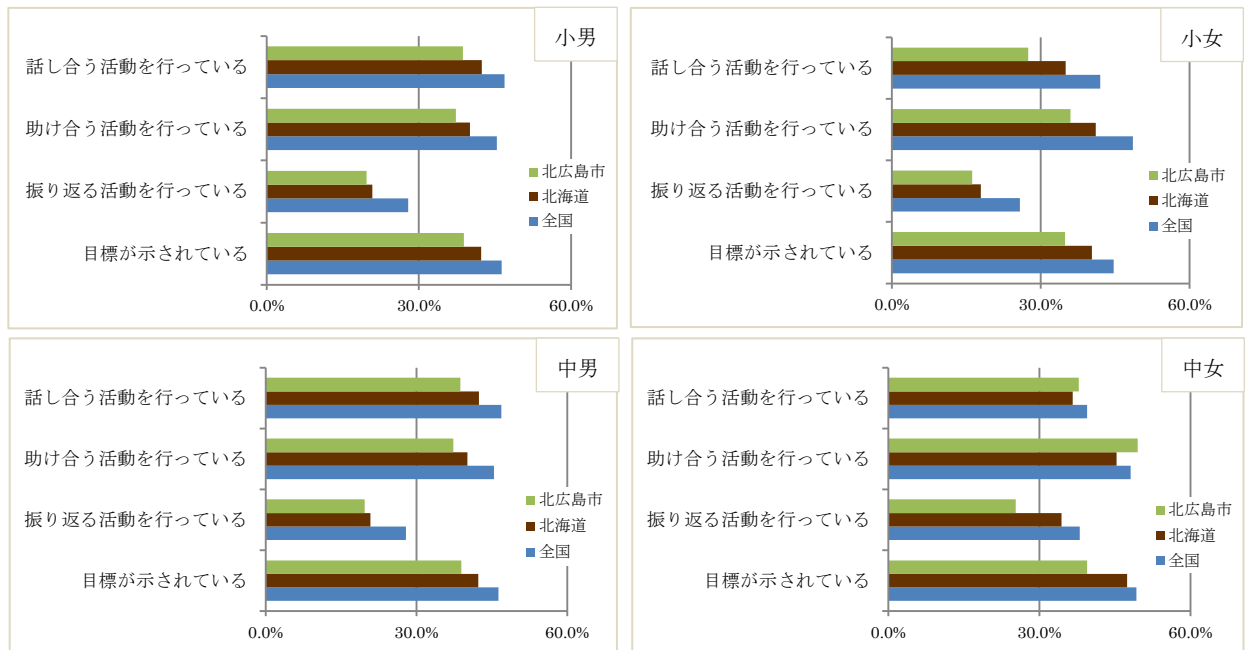
①運動が好き



②できないことができるようになったきっかけ・・・「授業中に自分の動きをビデオで見た」



③体育授業で各活動を行っている・・・「いつも行っている」と回答した割合



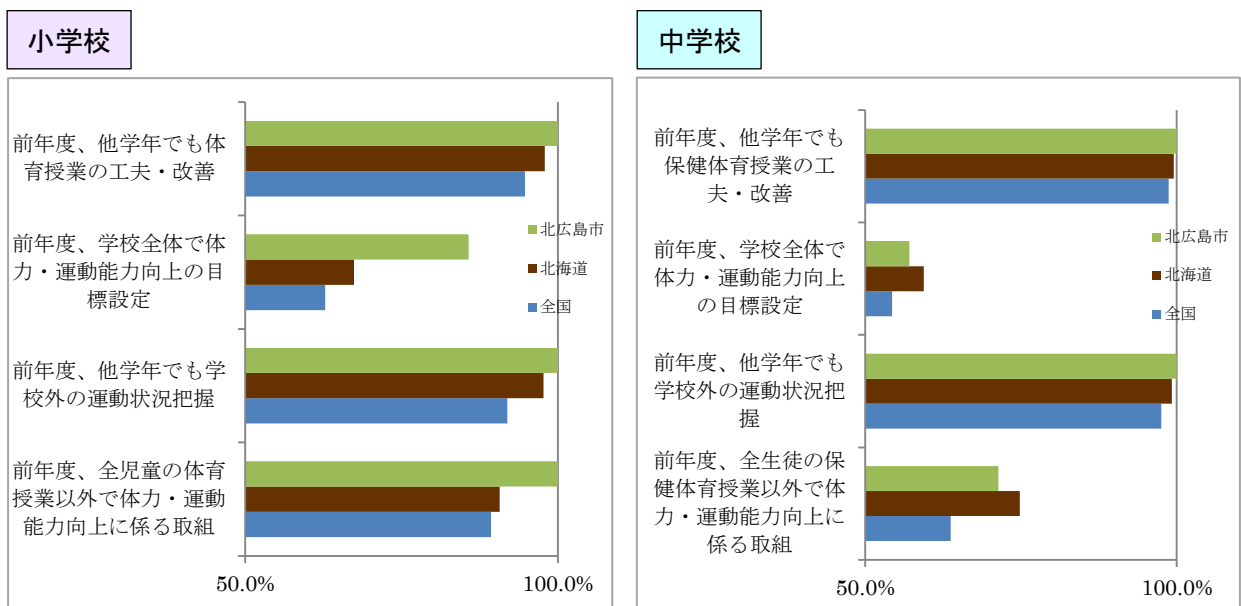
■傾向が顕著な項目

- ・「運動が好き」「体育の授業が楽しい」と回答した割合が小学校男子、中学校男子・女子で全国を上回っている。
- ・「できないことができるようになったきっかけ」で「授業中に自分の動きをビデオで見た」と回答した割合が、小学校男子・女子、中学校男子で全国を上回っている。
- ・体育・保健体育の授業※における各活動については、中学校女子の1項目が全国を上回ったが、それ以外については全国を下回っており、改善の必要がある。

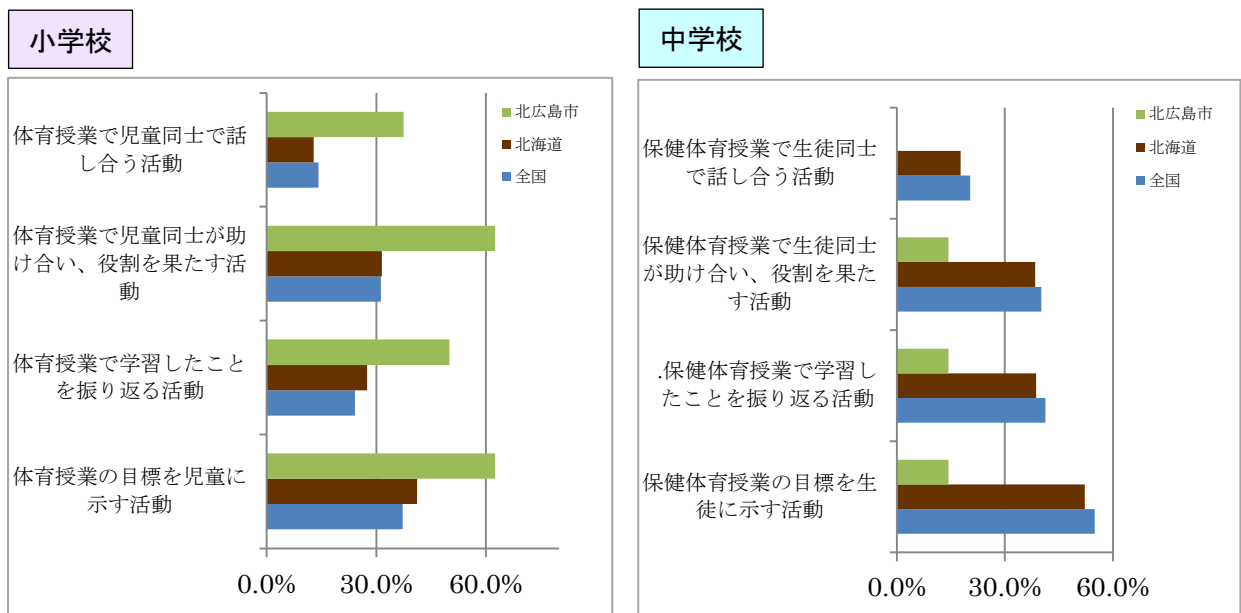
※小学校は体育、中学校は保健体育。「体育・保健体育授業」は、以後「体育授業」と記述。

(4) 学校質問紙調査

①体力・運動能力向上に係る各取組を「行った・していた」割合



②体育授業における各活動を「いつも取り入れている」割合



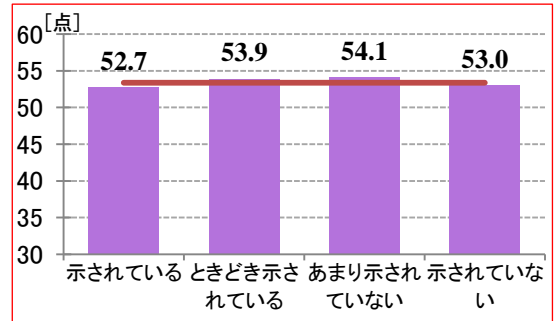
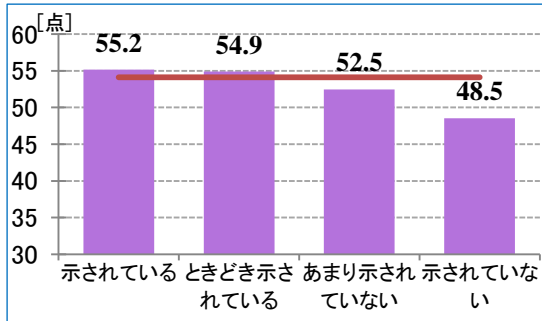
■傾向が顕著な項目

- ・「体育授業の工夫改善を行った」や「学校外の運動状況の把握を行った」と回答した割合が、小学校・中学校ともに100%で全国を上回っている。
- ・体育授業における「話し合う活動」や「助け合い、役割を果たす活動」については、「いつも取り入れている」と回答した割合が小学校で全国を大幅に上回っているが、中学校では全国より低くなっている。ただし、「だいたい取り入れている」と回答した北広島市の中学校の割合は、紙面には掲載していないが、各活動とも70%~80%で全国を大幅に上回っている。
- ・体育授業で「目標を示す活動」や「学習したことを振り返る活動」について、小学校では全国を大幅に上回っているが、中学校では全国よりはるかに低いため、改善が必要である。

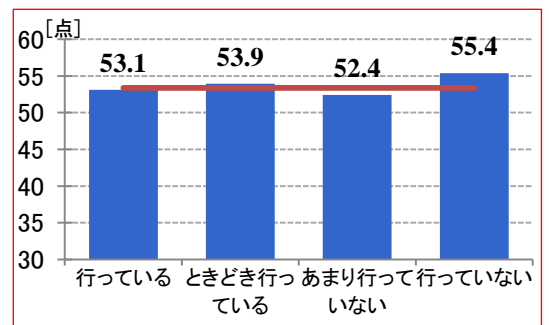
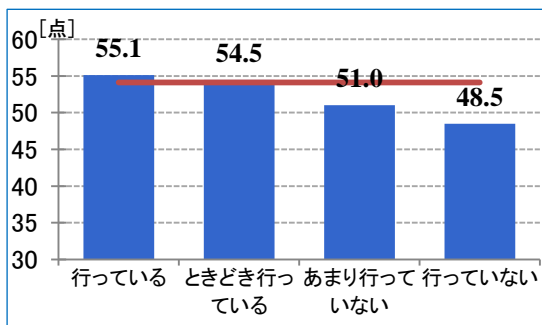
(5) クロス集計

設問に対する回答と体力合計点との関係を表したもの グラフの枠線の色(□:男子 □:女子)

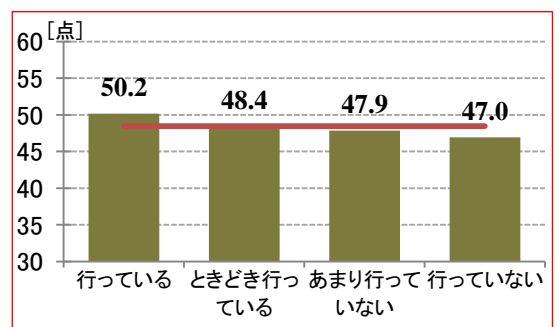
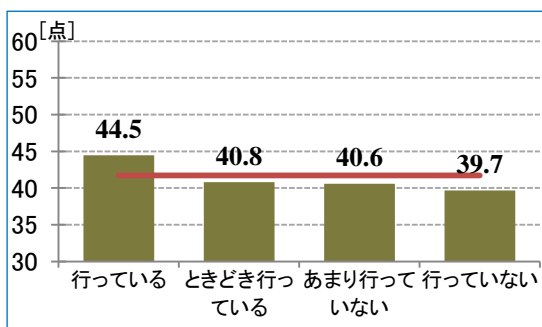
<小学校> ①体育授業の目標が示されている



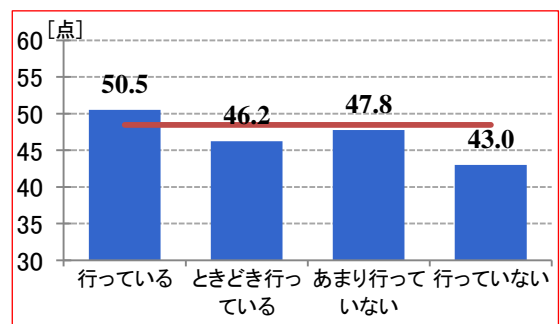
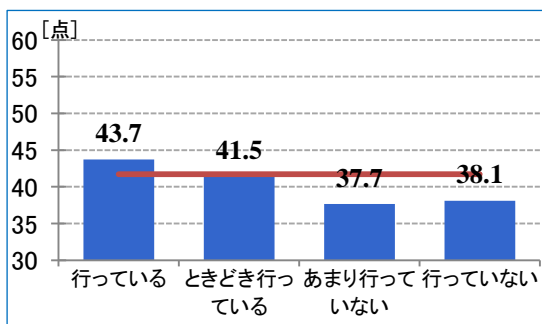
②体育授業で助け合う活動を行っている



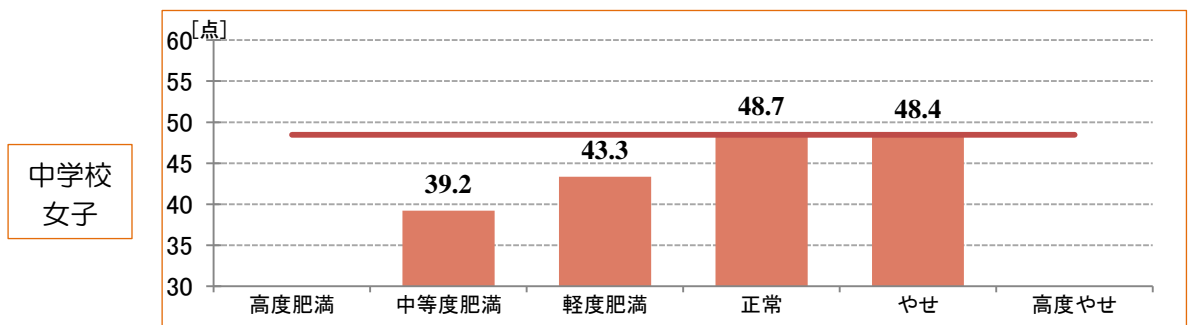
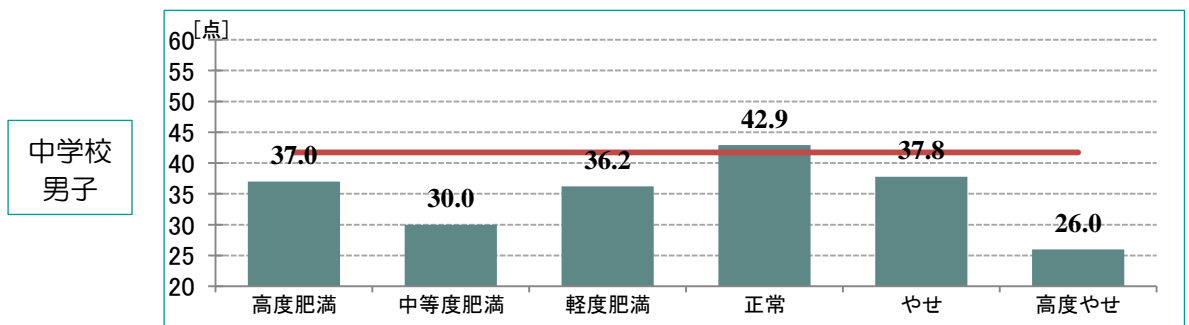
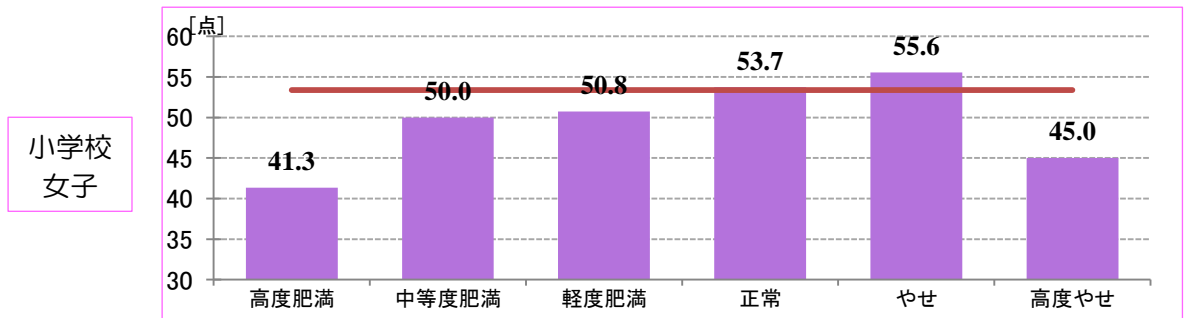
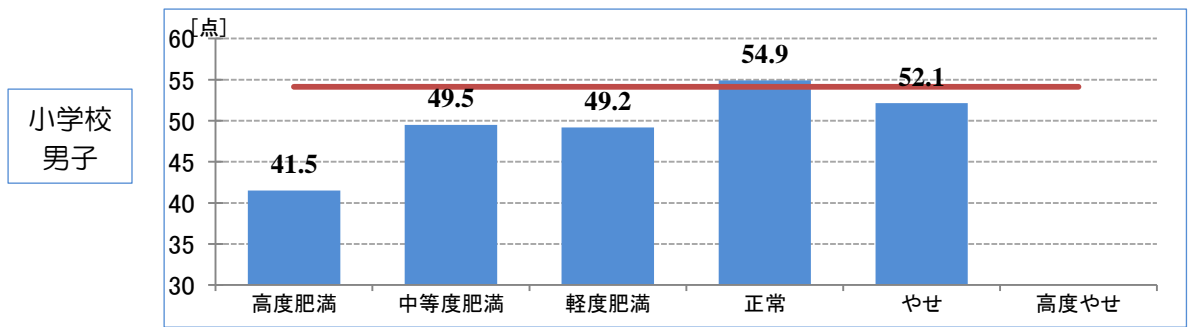
<中学校> ①体育授業で振り返る活動を行っている



②体育授業で助け合う活動を行っている



クロス集計 <肥満度と体力合計点との関係>



- 体育授業で「目標が示されている」「振り返る活動をしている」という項目で、「行っている」と回答した児童生徒は、「行っていない」と回答した児童生徒より体力合計点が高い傾向にあり、この傾向は中学校でより顕著になっている。
- 「体育授業で助け合う活動を行っている」と回答した児童生徒は、「行っていない」と回答した児童生徒より体力合計点が高い傾向にある。この傾向は中学校でより顕著になっている。
- 肥満度について、「正常」または「やせ」傾向の児童生徒は、肥満傾向にある児童生徒より体力合計点が高い傾向にある。

3 調査結果より

(1) ■ 体力・運動能力、運動習慣等調査の結果

北広島市の児童生徒の平均値から

- ・握力、反復横とびは全国を上回っており、20mシャトルランが全国を下回っている。
- ・体格について、身長が全国を上回っている。

■ 実技種目の分析と改善方策

種 目	改 善 方 策 等
握 力	・重いものを持ちたり、物につかまってぶら下がったりする運動を、日常的に取り入れていくことを心がけていきたい。
上体起こし	・小学校女子で弱い面がみられる。・最近の子どもたちは、腹筋を使う運動が少なくなっているため、日常の体育授業において、毎時間、短時間で腹筋運動を行うなどの工夫が必要である。
長座体前屈	・中学校男子に柔軟性に欠ける面がみられる。・体育の授業で毎時間柔軟運動を取り入れたり、テスト前に十分な柔軟運動を行う等の必要がある。柔軟運動については、二人一組で的確にストレッチをすることを心がけたい。
反復横とび	・各学校の工夫がよい結果に表れている。・さらに伸ばすためには、小学校低学年から、体育授業の導入において、サイドステップやラインなしの反復横とびの運動を繰り返し行っていくことが重要である。
20m シャトルラン	・取組の工夫改善が必要な種目である。・持久力だけでなく、つらいことをすぐにあきらめてしまったり、根気強く取り組めなかつたりという意欲が大きく関係することから、楽しく挑戦できたり、みんなで応援したり、目標を達成する喜びを感じさせる、というような意欲喚起を図る工夫が必要である。
50m 走	・小学校女子・中学校男子で弱い面がみられる。・最近はかけっこなどの走る経験が少なくなっていることから、体育や部活動、体力づくり運動など、あらゆる機会をとらえて走る経験を積ませていくことが大事である。
立ち幅とび	・女子で弱い面がみられる。・立ち幅跳びは瞬発力とともに背筋力が重要な要素である。腕ふりや着地の形も重要になることから、普段の授業の中で、立ち幅跳びの練習経験を多く積ませたい。
ボール投げ 小：ソフトボール 中：ハンドボール	・中学校で課題がみられる。・全身を使って正しいフォームで力強い球を投げるのが大事である。ドッジボールやバスケットボール、野球型のスポーツ等で、正しいフォームで投げる経験を多く積むことが大事である。

(2) ■ 質問紙調査の結果

- ・「運動が好き」「体育授業は楽しい」という回答の割合が小学校男子、中学校男子・女子で、全国を上回っている。
- ・「できないことができるようになったきっかけ」として「授業中に自分の動きをビデオで見た」という回答の割合が、小学校男子・女子、中学校男子で全国を上回っている。
- ・「体育授業の工夫改善を行った」や「学校外の運動状況の把握を行った」と回答した割合が、小学校・中学校ともに100%で全国を上回っている。
- ・体育授業における「目標を示す活動」や「振り返る活動」、「話し合う活動」や「助け合い役割を果たす活動」について、「いつも行っている」とした児童生徒の回答は全国を下回っているが、学校の回答では小学校は全国を大きく上回り、中学校では下回っている。児童生徒の回答と学校の回答の差について分析をしていく必要がある。また、中学校が全国を下回ったことに関して、「だいたい取り入れている」と回答した北広島市の中学校の割合は、紙面には掲載していないが、各活動とも70%～80%で全国を大幅に上回っている。中学校では、生徒の運動量確保の観点から、「話し合う」「助け合う」活動を毎回の授業でいつも取り入れるというよりは、授業の内容に合わせて適宜取り入れている学校が多い傾向にあると考えられる。

(3) ■ クロス集計の結果

- ・体育授業で「目標が示されている」「振り返る活動をしている」という項目で、「行っている」と回答した児童生徒は、「行っていない」と回答した児童生徒より体力合計点が高い傾向にあり、この傾向は中学校でより顕著になっている。
- ・「体育授業で助け合う活動を行っている」と回答した児童生徒は、「行っていない」と回答した児童生徒より体力合計点が高い傾向にある。この傾向は中学校でより顕著になっている。
- ・肥満度について、「正常」または「やせ」傾向の児童生徒は、「肥満」や「高度やせ」傾向の児童生徒より体力合計点が高い傾向にある。

(4) ■ 今後の取組に向けて

体力・運動能力、運動習慣等の向上については、学校ぐるみで取り組んでいることが成果としてあげられる。児童生徒の体力づくりや運動への意欲を喚起するための記録の掲示や個人カードの活用・個人目標の設定、休み時間などに練習に取り組むことができる環境整備、朝や放課後などの体力づくりの時間設定や十分な練習時間の確保と複数回のテスト実施など、各学校において工夫した取り組みがなされるようになり、その結果、多くの種目で改善が図られてきた。

特に、体育・保健体育の授業について、「できないことができるようになったきっかけ」として、「授業中に自分の動きをビデオで見た」や、「努力を要する児童生徒に対する取り組み」として「授業中に自分の動きを映像で見る」の割合が全国を上回ったことから、北広島市が推進する教育におけるICT活用が効果的に機能し、児童生徒の主体的な学習活動への参加や、学習意欲、思考力、判断力などの向上につながった結果であるといえる。

今後も他校の効果ある実践を参考にするなどして、児童生徒のさらなる体力・運動能力、運動習慣等の向上に向けて、今まで以上にきめ細かな取り組みを推進することが大切である。特に、小学校では全学年での体力テストの実施が求められているため、次年度は全学年で実施できるように教

育課程の改善を図っていくことが重要である。調査対象である小学5年生、中学2年生につなげていくためにも、小学4年生と6年生においては体力テスト実施率100%達成を目指したい。

また、小学校・中学校の児童生徒の多くが「体育・保健体育の授業は楽しい」と回答した一方、「授業における課題設定や振り返り」について、「いつも課題が示されている・振り返りをやっている」とした回答の割合が小学校・中学校ともに全国を下回った。教師側では授業の冒頭で目標を示し、授業の終末でまとめや振り返りをやっているつもりでも、児童生徒はそう受け止めていない、ということが少なくない。教師が児童生徒にどのような資質・能力を身に付けさせたいのかという観点からも「目標」を明確に示して、児童生徒に学習の「見通し」を持たせることや、「振り返り」を確実に行って、その授業で育てたい力の定着を図ることが重要である。できなかったことができるようになる体育・保健体育の授業を目指し、助け合う活動や話し合う活動も効果的に取り入れながら、児童生徒に運動の楽しさを伝え、学びを深めるための授業の工夫改善が必要である。

さらに、家庭・地域と協力して規則正しい生活習慣づくりに向けての働きかけを行い、健康や運動について、体育の授業はもちろん、学校教育の様々な場面において、児童生徒の理解を深め、生涯スポーツにつながるように導くことが重要である。引き続き小中の連携を密にして、体力・運動能力、運動習慣等の向上に関する全体計画などを策定し、児童生徒の意識や運動意欲を高める環境づくりや運動量を確保するための取り組みを進めていく。

以上